

美は、与えられる恵み

写真家 高道 宏

和紙による写真制作では水質を疎かにできない。良い水を探し求めて犀川水系にたどり着き、金沢市本多町にアパートを見つけ友人知人の協力で工房をもつた。

本多町の工房から茨木町の友人宅や喫茶店へ往き来する途中に鈴木大拙屋敷跡がある。第四高等中学校時代に知り合ひ、以後生活の地を異にしながらも緊密な交流を果たした二人の思想家、鈴木貞太郎・大拙と西田幾多郎・寸心。世界的思想家が同じ時代に石川県からどうして二人も生まれたのだろうかと思いを致す。

俳句 千年の美貌
梅沢 春子
(狩同人・金沢市世連石川会員)



高道 宏 作品写真「モロッコの風」から

大拙と寸心が生まれる約百年前、バウムガルテン(独)が『美学』を著した。芸術の本質は美であり、美は感性に

外に置いて、その一点に注意を集中するのに対し、日本人は対象の中に己がすっぽり包まれ、自他の差を融解し、花よりも感覚を愛する。ブッダは、あらゆるものの中に心をとき、「心は事物に先んじ、支配し造り出す」「心は総ての働きを導くものである」「先ず専心すればことは心の修練である」と説かれ

た。

西田幾多郎は「絶対矛盾的自己同一」と考へ、「作られたものから作るものへ」言い換えれば、「自己も環境も同じく「作られたものから作るものへ」という性格を有しており、自分が主体として考えられるばかりでなく、環境もまた一つの主

時、しつかりした見通しをもつていても、制作時に想定通りに進めても、本当に美しい作品ができるという保証はない。

カメラのシャッターを切る

て「無になる」のだと。無になり対象と一体化すれば、万象の奥底に潜む美を感じたこと。私は考へ、対象に身を委ねて瞑想し、そこで感じたことを写真で表すよう努めている。言い換えれば、わざとらしさを捨て、自然界の方に従い、種々の出来事や物を見て感じた。その一瞬をフィルムに永遠化している。

八王子市在住、富山県砺波市出身)

事務局日誌 (10)

ターニー・作文コンクール表彰式(金沢エクセルホテル東急)

8・1 「世界連邦石川」第43号発行
北陸愛善会より藤谷忠安氏
を新理事に推举

本部作成のパンフ「世界法による世界平和」を会員に配布

第3回事務局会議(石浦神社)
①世界連邦運動協会法人化の件②ポスター・作文コンクール実施の件など

小冊子「世界連邦実現に向けて」運動の理念と歴史

2010年版を会員に配布
荒島組織部長出席

本年度第2回本部執行理事会に平口理事長出席(衆院第二議員会館)

第29回世界連邦日本大会(2010札幌)に平口理事長

開催(石浦神社)

石川県連秋の講演会とボス

クール審査会(石浦神社)

石川県連の世界連邦推進小

学生ボスター・作文コン

選出(石浦神社)

多謝。(S)

編集後記

世界連邦運動は平和や人権など現実的諸問題の理解や取り組みが重要であることは言うまで

もないが、静かに一人に立ち返り自らの心に向き合うことも大事である。今号は、そんなことに気づかされる材料が多く、心

彈ませて編集することができた。

多謝。(S)

美は想像図の外にあるものなのだ。想像図に描くことができないということは、美が作り出されるというより「恵み」として与えられるのではない。私の為することは、想像図を頭に描き、その実現に努めることのみで、それ以上のことはできない。美はその仕事に対して与えられる恵みである。

(たかみち・ひろし) 東京都

